

ホンモロコで休耕田を復活

水産科 2 年 佐藤優紀, 佐藤祐貴, 鈴木俊佑, 土屋啓明, 伴佳奈美

1. はじめに

私たちがこの研究を始めたきっかけは、平成 22 年 9 月 21 日の下野新聞です。先輩たちの研究が掲載されました。ホンモロコのみ化に成功し、次は水田を利用し、実際に養殖が可能かを検証してもらいたい。将来的には、耕作を放棄した水田活用に役立ってほしいとのことでした。私たちはその意思を引き継いで研究していくことになりました。



図 1 ホンモロコ

2. 本研究の目標

私たちの目標は

- (1) 水田を利用した養殖
- (2) レシピ、加工品考案、作成
- (3) 出荷 2 つの水田で 400 キロ

これらのことから那珂川町の活性化につなげることが最終目標でした。

3. 材料と方法

材料は本校実習場で採卵したホンモロコと、埼玉県にある鈴木養魚場から発眼卵で購入したホンモロコを使用しました。方法は、新聞を見た那珂川町役場の方から休耕田でホンモロコ養殖をしてほしいと依頼を受け、卒業した先輩たちが話を進めてくれていました。

那珂川町ホンモロコ研究会、久那瀬ホンモロコ養殖組合、那珂川町役場、栃木県水産試験場、塩谷南那須農業振興事務所、鈴木養魚場の皆さんに協力をしていただき研究していました。

調査は、10 月 18 日～21 日、修学旅行で琵琶湖へ行きホンモロコの現地調査を行いました。地元に行けば何か参考になることがあるのではないかと思います、草津市の琵琶湖博物館、長浜市の川魚店 2 店に行きました。最初に行った店は天然のホンモロコを取り扱っている店で、高級感のある店で販売していたホンモロコは、9 尾入りで 800 円でした。さすがに天然のホンモロコは高いです。刺し網で獲ったものは、サイズがそろっていて高いそうです。もう一店では養殖のホンモロコを使って、20 尾は行って 580 円でした。天然ものは、数が少なく高価なため、養殖ものを利用しているとのことでした。ほとんどは旅館に出荷し、一部店頭販売を行っている店でした。

自分達でも、コンクリート池と水田での成長の違いについて比べました。

4. 結果

コンクリート池で育ったホンモロコは、10月6日で平均3.5グラムでした。

水田で育ったホンモロコは、3尾しか採れませんでした。10月6日で10グラムに育っていました。コンクリート池の魚と比べると、ほぼ3倍の違いがあります。

水田で成長が早いのは、ホンモロコは無胃魚なので、1度に大量の餌を食べることができません。水田の飼育水にはワムシやミジンコが大量にわいているので、ホンモロコが食べたい時に餌があり、成長が早いです。

一方、コンクリート池では1日に3回の餌しか食べることができないので、ホンモロコは成長が遅くなることが分かりました。

10月25日、大内地区にある那珂川町ホンモロコ研究会が出荷をしました。地域の方たちと地引網で水揚げしました。当日は120キロ水揚げしました。学校の池で泥抜きをし、地元川魚店の林屋さんに出荷しました。この池では最終的に270キロ以上は生産できました。久那瀬にある池では30キロしか水揚げできませんでした。原因は誰かが野池と間違えて大きな鯉を放流されてしまいました。鯉が雑食性のため、ホンモロコを食べてしまい、水揚げ量が少なくなったと考えられます。来年は看板を立てるなどして今年のような失敗を繰り返さないようにしたいと思います。

5. 反省及び今後の課題

今年は、自分達で進んで行動することがあまり出来なくて、ホンモロコ関係者の皆様に大変ご迷惑をお掛けしたこと、深く反省しています。

ホンモロコは栃木県はもちろん、那珂川町でもまだまだ知名度が低いのでホンモロコの力をかりて、那珂川町や栃木県の活性化につなげたいです。ホンモロコの試食会等も地元だけでなくより多くの場を使って、多くの人にホンモロコを食べていただけるよう努力していきます。

これからは、今年できなかった試みもいろいろ行っていきます。

結果をもとに来年は自分たちで考えて活動して、先生や地域の方たちに迷惑をかけないようにしたいです。

ホンモロコが縁で集まった地域の方達とさらに協力して、那珂川町の活性化につなげたいと思います。